

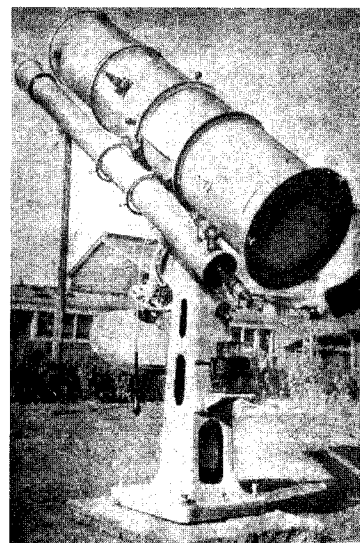
## 荻部氏の反射望遠鏡(1)

白川 博樹 II. Shirakawa  
(香川県 三豊市)

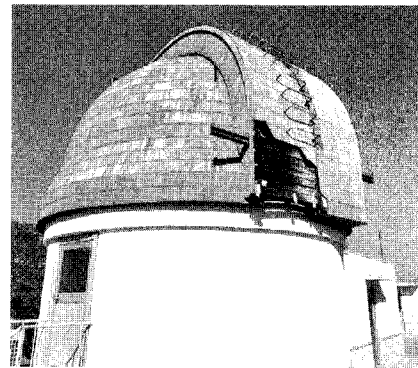
### 1. はじめに

天体望遠鏡博物館の白川です。1939(昭和14)～1941(昭和16)年に、(当時)東亜天文協会山本博士の下、五藤齋三氏と共に副会長をしていた荻部(ささべ)進氏の望遠鏡をお譲り頂きましたのでご報告いたします。

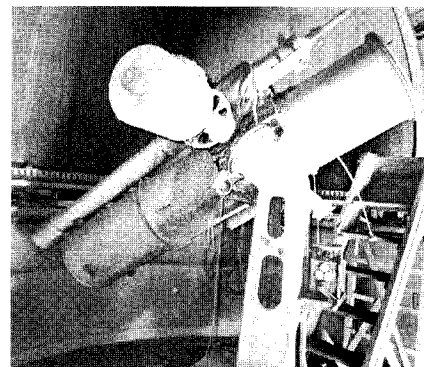
数年前、国会図書館で古い雑誌を眺めていて、ふと見慣れない写真をみつけました。写真のタイトルは「日本最大といわれる反射望遠鏡」。記事には47cm反射望遠鏡とあります。川崎天文同好会の友人に聞いてみると、それがまだ横浜学園高等学校に存在するとのこと。急ぎ連絡し、ご案内頂いたのが2年前。望遠鏡を見た瞬間、写真が脳裏に浮かび、時間を越えて現代に現れた驚きに、「あった～」と思わず声に出してしまいました。そして即座に事務長様に、「何があっても捨てないでください。もし廃棄する必要があるれば、是非ご連絡ください。」



日本最大といわれる反射望遠鏡



横浜学園高校下見(1)



横浜学園高校下見(2)

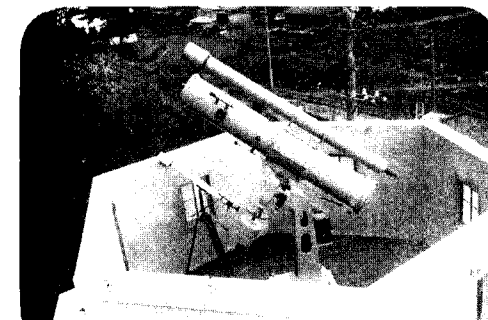
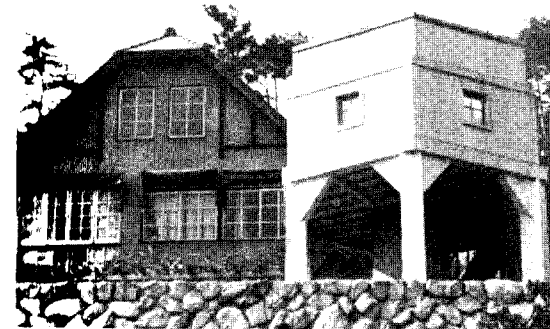
とお願いして帰りました。突然の訪問にも親切に対応いただきました。

### 2. 望遠鏡の歴史

この望遠鏡については、複数の写真や記録により戦前に荻部氏が保有していた機材であることがほぼ間違いはないということで、今回はそのように報告させていただきます。

「天界」1935年2月号(No15(167))に、「六甲星見臺の荻部氏の新反射赤道儀」(木邊成麿)という製作記が掲載されております。抜粋しますと

1934(昭和9)年春 荻部氏宅に英国より  
リンスコット\*118インチ(=約46cm)ミ



「天界」1935年2月号(No15(167)、190-192)

が到着

7月末 木邊氏(当時22歳)に相談。

8月 口径31cm F1=240cmの反射望遠鏡製作することに決め、木邊氏に依頼。

12月末 暫定として口径26.5cm F1=209cmのミラーを組みこんだ反射望遠鏡が完成、ミラー以外は西村製作所製  
1935(昭和10)年～本格的に稼働

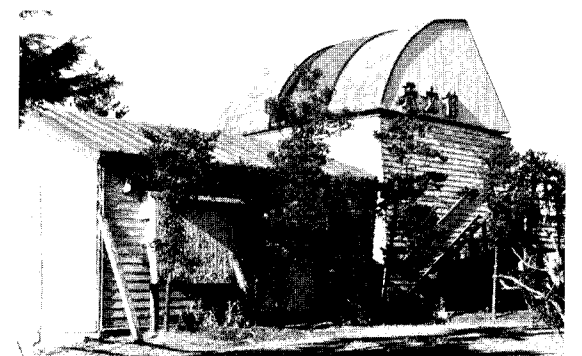
当時の神戸にはスコフィールド氏や改發古鳥(かいほつこうき)氏、射場保昭氏という著名なアマチュア天文家がすでに天文台を構えており、1930(昭和5)年には射場氏がリンスコット製31cmミラーで望遠鏡を組み上げておりました。そのような環境で、荻部氏は神戸の高台の自宅横に六甲星見臺という観測所を完成いたしました。

荻部進氏については、天文古玩の角田氏によると東京高商(現一橋大学)を出て、三井物産に入社。イギリス等海外赴任を経験、紳士録にも名を連ねていたエリートサ

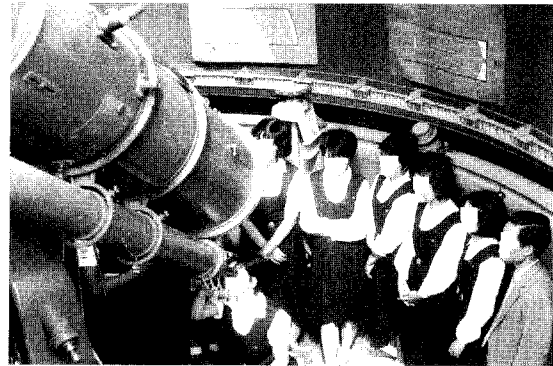
ラリーマンとのこと。ご夫人(守子氏)と共に天文学と音楽鑑賞を趣味とし、1935年当時は進氏43歳、守子氏37歳、一男二女に恵まれ、忙しい業務や子育ての間に六甲星見臺にて音楽に包まれ星を見る優雅な時間を楽しんでおられたようです。以降の活躍については、「天界」や「日本アマチュア天文史」(日本アマチュア天文史編纂会編、恒星社恒星閣、1987)や「続日本アマチュア天文史」(続日本アマチュア天文史編纂会編、恒星社恒星閣、1994)に度々登場いたします。望遠鏡製作当時、進氏は東亜天文協会の掩蔽課に属し、守子氏は遊星面課(後に掩蔽課)に属しており、熱心に観測されていた記録が残っております。

ただ1942年以降の荻部ご夫妻や六甲星見臺については情報が有りません。戦況が厳しくなり、そのような生活が許されなくなったことは容易に想像が付きませんが、詳しい情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、お知らせください。

1958(昭和33)年1月の神奈川県の日元新聞によると、1949(昭和24)年春、大阪のデパートで売りに出っていたのを横浜市が約百万円で購入し、五藤光学研究所にメンテナンスに出した後、横浜市で1949年3月15日から6月15日まで開催された日本貿易博覧会 第一会場(野毛山会場)で公開されました。博覧会が終了した後、1951(昭和26)年4月野毛山遊園地開園と同時に



野毛山遊園地の天文館



横浜学園高校に移設した直後の写真  
(横浜学園高校様ご提供)

に園内の天文館に納められ小、中、高校生や町の天文愛好家たちに利用されていましたが、次第に利用者が少なくなると市では維持、管理上面倒であるとして1955(昭和30)年10月にはこの天文館を閉鎖してしまいました。1957(昭和32)年国際地球観測年を機会にこの天文館の望遠鏡をなんとかしては、という声が地元天文愛好家の間に起こり、横浜学園高校様が横浜市に申請し、翌年移譲されたとのこと。それがこの望遠鏡です。

はじめの写真は1949年3月19日に五藤光学研究所で撮影されたもので、横浜市が購入したとの1949年春と同時期。どちらの情報も間違っていないことでしたら、その時点ですでにリンスコットの18インチ鏡筒に挿げ替えられていた可能性が高いこととなります。

### 3. 突然の電話

2019年11月後半のある日、事務長様から突然に電話を頂きました。お伺いした以降、数回メールで状況をお聞きした後、ここ1年以上お便りしてなかったこともあり、先方からの電話に少し驚いたものです。「先日の台風でドームが破損したのでこの機会に撤去したい。望遠鏡をお譲りするので持ち帰って欲しい」とのこと。喜んで引き取らせて頂くことにいたしました。

### 4. 苦勞した回収作業

12月7日(土)に嬉々として上京、再度下見。2年前と同じですが、周りのドームは破損し簡易養生はされ雨は入らないようにされておりましたが、剥がれたドームの内張りの木片が床に重なっており、埃舞う状態でした。

12月9日(月)にドーム撤去を請け負う業者さんと打合せ。14日に別件で博物館向けに準備していたトラックに混載する計画を立て、クレーンが地形的な制約で使えないことから、お昼から人力で下ろせるか分解してみることにしました。事前をお願いしていた関東圏の仲間たち6名と解体を試みましたが、赤道儀とピラー部が一体となった架台、鉄の塊はその場では解体困難であることが分かりました。

これまで200kg程の架台は人力で階段を使い屋上から下ろしたことはありましたが、間口の狭いドーム、配管が這う階段までの屋上の経路、全鋳鉄製300kgは越えそうな重量を考えると、熟年世代中心の私達メンバーでは難しいと、代表理事の村山に相談し、ちょうど別の望遠鏡の解体に協力いただいていた専門業者さんをこちらに手配して頂くことになりました。

12月14日(土)業者さん6名と私ども4名(他2名)。架台に10名が囲い、掛け声を合わせながら、4階から3時間をかけて下ろしました。台座から下す時、ドーム



12月14日、専門業者の方々との搬出作業

から出すときは業者さんのプロの技に感心し、つくづく有難く思いました。終わったのは夜。深夜京都に輸送し、一時保管の後12月22日に天体望遠鏡博物館に運び込まれました。

### 5. 最後に

今回の回収作業については、横浜学園高等学校様のご協力無くては成しえなかったもので、大変感謝いたしております。その他、平日にもかかわらず集まってくれた仲間たち、専門業者の方々、情報収集においては天文古玩の角田氏をはじめたくさんの応援を頂きました。書面ではありますが、深くお礼を申し上げます。

ただ、私にはいくつか調査したい事が残っております。

(1) 笹部氏はどのような経緯で26cm反射鏡筒をリンスコット18インチ鏡筒に交換し、手放したか。

(2) 現物のミラーは鏡径47cm、有効径46cm。ただ記録では46cm、47cm、48cm、50cmと色々な記録があります。ミラーには銘がなく、途中でミラーが入れ替わったと

いう事はないのか？

運び込まれた望遠鏡は、博物館のレイアウト変更の関係で1月末の時点でもまだ組まれておりません。ただ、部品を整理してきたなかで、いろいろ興味深い事実が分かってきました。

今回、まとめてご報告したかったのですが、とりあえず第一回のご報告とさせていただきます。

注)\*1:リンスコット(Linscott)は、1900-20年頃に活躍したイギリスの鏡面製作者。ガラス製反射鏡研磨法の確立に関わった一人、ウィズ(George Henry With、1827-1904)の用具一式を買い取りドーバー海峡沿いのラムズゲートの町で開業

(角田氏情報提供) The controversial pen of Edwin Holmes, Jeremy Shears, Cornell University, Journal of the British Astronomical Association, References and notes 9

<https://arxiv.org/ftp/arxiv/papers/1405/1405.7723.pdf>

### 書籍受領 (2020年3月~4月)

お恵送くださった関係各位に御礼を申し上げます。[4月5日受領までを掲載@編集部]

- ・「月刊きたすばる」2020年4月号(なよろ市立天文台)
- ・「月刊 星ナビ」2020年5月号(アストローツ 星ナビ編集部)
- ・「月刊 天文ガイド」2020年5月号(誠文堂新光社 天文ガイド編集部)
- ・「月の科学と人間の歴史」西田美緒子 訳(築地書館、定価3,400円+税)
- ・「天文台通信」162号 2020年3月20日発行(関東天文協会/神津牧場天文台)
- ・「星」No. 390 2020年3月発行(川崎天文同好会)
- ・「天文回報」No. 933 2020年4月号(日本流星研究会)
- ・「星空のレシピ」第352号 2020年4月号(明石市立天文科学館)
- ・「Mpc(メガパーセク)」No. 154 2020年4月(みさと天文台友の会)
- ・「星のたより」2020年4月号(鳥取市さじアストロパーク/佐治天文台)
- ・「TSA ニュース」2020年4月号(鳥取天文協会)
- ・「星ぬイヤリ」2020年3月号(NPO法人 八重山星の会)